

# かがやき

人権イメージキャラクター



人KENまもる君

人KENあゆみちゃん

発行／福知山人権擁護委員協議会

第13号

2022年(令和4年)

2月発行

京都地方法務局 福知山支局内

TEL (0773) 22-1293



◆「人権の花」運動啓発／夜久野小学校



◆「人権の花」運動啓発／大正小学校



◆「スマホ・ケータイ人権教室」啓発  
綾部高校由良川キャンパス



◆「人権の花」運動啓発／成仁小学校

「誰か」のこと  
お互いを尊重し、やさしさを育もう  
じゃない

コロナ禍も3年目を迎えました。当会につきましても、昨年は何かと活動が制限されました。やりたいこと、したいこと、しなければならないことさえも、コロナ禍で身動きが取れないことが多々あったのではないのでしょうか？心よりお見舞い申し上げます。

コロナ禍の影響で先行きが混沌とし、不安いっぱいでお過ごしされている方々が多数いらっしゃることでしょう。誰に相談すればよいのか、学校で職場で、社会で不安から孤独を感じている方はおられませんか？

私たち人権擁護委員を思い出して下さい。みなさまのお声を聴き、より過ごしやすい社会を目指して活発な活動を行ってまいります。

ぜひ、みなさまのお近くの、身近な「特設相談所」をご活用ください。



京都府の人権の花  
すいせんの絵  
(児童作品)



福知山

人権擁護委員協議会

会長

山本みさ子

### 「心のバリアフリー」

この二年も、新型コロナウイルス感染症拡大により、まだ予断を許さない状況が継続しています。

人権啓発活動については、コロナ禍ではありましたが、中学生人権作文コンテストや人権の花運動等に、創意工夫をこらして取り組みました。

人権作文の結果を、今回こうして掲載できることに、協議会として大変嬉しく思います。作文を書くことを通じて、多様な人権問題を自分のこととしてとらえ、人権について理解を深めることに繋がると感じています。

今年度は、大津市の中学生のいじめによる自殺から10年となり、この悲劇が「いじめ防止対策推進法」成立のきっかけとなりました。

けれど今だに悲劇は繰り返されています。いじめや虐待事案等は、極めて重要な人権課題です。

命の尊さを、誰もが自分のこととして受け止め、大切に育てていける社会実現に向け「心のバリアフリー」

推進の為、27人の委員は、さらに人権啓発に取り組んでまいります。今後とも皆様のご理解と御協力を、宜しくお願いします。



京都地方  
法務局

福知山支局

支局長

森田 聡

### 「中学生人権作文コンテスト」

法務局と人権擁護委員協議会では、人権問題を誰かの問題ではなく、自分の問題として捉え、人権を尊重することの大切さについて考えていただけるよう、「誰か』のこと、じゃない。」をキャッチコピーに掲げ、各種の人権啓発活動を展開しています。

その一環として、次代を担う中学生の皆さんに、日常の家庭生活や学校生活などの中で得た体験等を通して、人権尊重の大切さや基本的人権についての理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けてもらうことを目的として、昭和五十六年度から「全国中学生人権作文コンテスト」を実施しています。

本年度、福知山市と綾部市の中学

校17校の生徒さんからは、「子どもに関する問題」、「障がいのある人に関する問題」、「インターネットを悪用した問題」、「男女が相互の立場を尊重すること」などをテーマとした1042編の応募をいただきました。

本誌には、京都新聞賞を受賞された綾部市立林中学校二年生の井上歩乃花さんの作品を掲載しています。

また、法務省ホームページには、これまでの入賞作文集や、入賞作品を題材にしたコンテンツが掲載されています。いずれも中学生らしい感性に富み、純粋な感覚で人権問題をとらえたものばかりです。どうぞ、作品に触れてみてください。

お互いを認め、共に幸せに暮らせる社会を目指して、各種活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。



京都府の人権の花  
すいせんの絵  
(児童作品)

令和3年度

全国中学生

人権作文コンテスト

京都大会には、福知山協議会管内の中学校から1042編の応募があり、次の皆さんが入賞されました。

☆京都新聞賞  
上林中(2年)井上歩乃花さん

☆KBS京都賞  
上林中(2年)渡邊 悠人さん

☆京都サンガFC賞  
六人部中(1年)芦田 はなさん

☆NHK京都放送局賞  
綾部中(3年)由良 愛菜さん

☆佳作  
上林中(1年)井上 和祈さん

綾部中(2年)加藤 未梨さん

☆福知山協議会長賞  
(前記6編を含む10編)

綾部中(3年)塩田みのりさん

(2年)山口 奏音さん

(1年)野口 菜月さん

(1年)橋口 雅也さん

八田中(2年)山内 萌果さん

桃映中(2年)嫁田 凜さん

日新中(2年)内藤 千春さん

(2年)宮田 茉奈さん

(2年)田邊美優香さん

大江中(3年)井上 春華さん

(3年)青木 陽菜さん

福知山高等学校附属中  
(1年)青木 更紗さん

京都共栄学園中  
(2年)上林 紗奈さん

(2年)谷村 佳子さん

☆中央大会感謝状  
桃映中学校  
八田中学校  
川口中学校  
八田中学校





## 「言葉の重み」

綾部市立上林中学校 二年 井上歩乃花

今の時代に欠かせないほど多くの人の日常に浸透しているインターネット。インターネットが私達の生活の一部になったことで、様々な人と連絡がとれたり、簡単に情報を収集できたり、写真や動画を共有できたりと、誰もが世界とつながることが可能になった。インターネットがあることで私達の生活は確実に便利になっていく。しかし、その利便性を利用して、間違った使い方をしてしまう人は残念ながらたくさんいる。

### 「誹謗中傷」

匿名であるのをいいことに、根拠のない悪口を並べて、見ず知らずの人が相手のことを批判し、傷付けている。SNSを私自身が利用する中で、不適切な言葉を見かけたり、誹謗中傷の被害にあった芸能人のニュースを目にしたことがある度に、心がとても痛む。匿名といつのは自分のプライバシーを守るためのものでは決してないはずだ。

最近、誹謗中傷の被害をSNSやユーチューブ等で見かける回数が増えていると感じ

る。匿名を利用し、心無い言葉で相手を傷付ける加害者が増えているということだと思ふ。私が今までに目にした誹謗中傷の被害の中で特に心を痛めた被害がある。

その一つは、自分の子供が行方不明になった親への誹謗中傷だ。被害にあわれた方は、犯人でもないのにSNS上で犯人扱いされ、暴力的な言葉を浴びさせられたことをテレビで必死に訴えられていた。苦渋に満ちた表情から、やるせなさや悲しみが画面越しでも伝わってきた。私はその被害者の方の悲痛な心の叫びが忘れられない。子供が行方不明になったことだけでも不安でたまらないはずなのに、見ず知らずの相手に責められ、追いつめられ、もっと苦しめられる。つらい思いをしている人に対して、どうしてそれ以上追いつめることができるのだろうか。

二つ目は、今年開催された東京オリンピックに出場された選手への誹謗中傷だ。私は、このオリンピックで選手の皆さんが自分のベストを尽くし、競技している

姿に胸をうたれ一喜憂した。しかし、ニュースで、メダルを獲得した日本人選手が誹謗中傷を浴びているという事を知り、衝撃を受けた。特に金メダルを獲得した選手に誹謗中傷が集中しているのだという。オリンピック本番までに、その選手にしかわからない練習や経験、努力をされた上でつかんだメダルを「返上しろ」「判定が間違っている」などと書き込み、傷付ける。私がリアルタイムで応援していた選手の何人もがこの被害にあっていることを知り、「なんで」と怒りに近い感情をいだいた。

誰かを誹謗中傷することは、いけないことだと自覚している人は多いだろう。しかし、「匿名だから大丈夫。」と普段はできないことをネット上でしてしまったり、ストレス発散のために書き込んだりして、傷付かなくていい人が傷付けてしまつ世の中になっていくのではないだろうか。このままだと誹謗中傷しても何とも思わない人が増えてしまつと思ふ。

それは、インターネットだけではなく。私は最近、学校などでの日常生活でも暴力的な言葉が安易に使われていると感じる。「殺す」や「死ぬ」のような、聞くだけでも気分が悪くなる言葉をよく耳にする。本人は冗談のつもりで言った言葉かもしれない。聞いている周りの人も言っている人が本気ではないと判断して、何とも思わない。この状態は異常だと感じなければいけない。言われた人にとって、本気でないとしても、みんながみんな冗談で受け止められるわけではない。周り

はツツ」みのように思つて笑つが、言われた人と同じように嫌な思いをした人がいたかもしれない。そう思うと私はゾツとした。

言葉の重みといつのは、人によって異なるものだ。何回言われても心を素通りしてしまつ重さ。たった一度だけ言われたことで、人を死まで追いつめる重さ。言葉の重みに耐えきれず、死といつ道を選んだ人はたくさんいる。言葉といつのは時に立派な凶器になる。それを私達は忘れてはならない。誹謗中傷をなくするためには、「人が傷付くことはやめましよう」といつ呼びかけだけでは、何も変わらない。まずは、書き込む前に、じっくり考えた上での自分の意見なのか、それを全世界に向けて発信する必要はあるのか、立ち止まるといつ意識が必要だ。

「ありがと」「どうしたん？」言われて心が温かくなる言葉はたくさんある。自分の発信した言葉で誰かを押し潰してしまつより誰かの心を元気にする方がいい。一人一人が言葉の重みを感じながら、自分の言葉に責任を持つことが大切だ。相手の立場に寄り添つて、言葉を選んで使うことが人権を守ることにつながると思ふ。まずは自分が、言葉に対して敏感になり、正しく使える人になれるよう、仲間や家族と接していきたい。

